



令和8年9月9日

呉市立原小学校
校長 梶本浩史

〈学校の「駐車場問題」と、業務員さんの大奮闘〉

今回は、少し地味だけれど、学校にとっては結構大きな問題である「学校環境の整備」のお話です。

学校には、毎日、いろいろな車がやって来ます。職員の車はもちろん、給食車、ごみ収集車、プロパンガスのトラック、教材業者の車、そして来校される方の車……。学校は、意外と「車の出入りが多い場所」なのです。

ところが、学校という場所は、そもそも車がたくさん出入りすることを想定して造られているわけではありません。昔は今ほど車社会ではなかったからでしょう。本校にも、いわゆる「駐車場」と呼べる場所はありません。空いているところを見つけては、「ここ、止められるかな？」と知恵を絞りながら対応しています。

今年度からは、「放課後こども教室」が始まり、その職員の方々の駐車スペースも新たに確保する必要が出てきました。そこで、正門付近の花壇沿いに駐車していただくことにしました。

しかし、ここで新たな問題が発生しました。雨が降ると、地面が「田んぼ化」します。駐車するたびに泥がはね、周辺の道路まで泥だらけ。これでは、駐車場なのか、泥んこ遊び場なのか分かりません。

「それならコンクリートを入れればいいじゃないか。」

……おっしゃるとおりです。しかし、学校の予算というものは、なかなかこちらの思いどおりにはいきません。そこで、今回はコンクリートではなく、砂利を敷いて対応することにしました。

ここから大活躍したのが、学校業務員さんです。地面を下処理した後、砂利山から砂利を一輪車に積み、運んでは下ろし、また戻って、また運ぶ。これを何往復も繰り返し、最後は敷いた砂利を均していきます。しかも、一日で終わる仕事ではありません。何日にも分けて、少しずつ、少しずつ進めていきます。

私も「校長として、ここは一肌脱がねば！」と思い、少しお手伝いしました。

……結果、翌日にはしっかりと体に疲れが残りました。砂利、恐るべし。業務員さんは、これを何日も続けてくれたのですから、本当に頭が下がります。

秋の長雨が本格的に始まる前に、まずは片側半分が完成しました。これで少しは「田んぼ化」を防ぐことができそうです。

学校の環境整備というと、校舎をきれいにしたり、花壇を整えたりすることを思い浮かべるかもしれませんが、実際には、今回のように学校ごとにさまざまな困りごとがあるのです。そして、その一つ一つに対して、学校の職員が知恵を出し、工夫しながら改善しています。

「予算がないからできません」ではなく、「どうしたらできるだろう？」と考える。そんな小さな工夫の積み重ねが、子供たちにとって安全で気持ちよく過ごせる学校につながっていくのだと思います。

そして何より、今回の砂利敷きで大活躍してくださった学校業務員さんに、心から感謝です。本当にありがとうございました！そして……残り半分も、よろしくお願いします！

